

第51回「ハートミーティング」意見交換の内容について

環境職研修会 環境配慮建築物検討分科会

★参加メンバーからの主な声

- 環境職研修会の発足から、知識のインプットや政策についての議論は行ってきたが、それだけでなく、政策提言等のアウトプットに繋げなくてはならないと常にかけていたので、そのような想いでまとめた提言を市長に説明する機会をいただくことができ、非常に有意義な時間となった。
- 環境職は、縦割り行政を打破する使命を担っており、市民活動に関わるなど、職場でも職場外でも環境に対する取組を率先垂範して進めていかなければならないと感じた。
- 今回の提言について、市長に内容を評価していただいたことは非常に嬉しかった。一方で、環境職の使命についての市長の話は非常に重いものがあり、今後、環境職として存在意義を見出すためにも常に心に留めておくようにしたい。
- 「最高の教師は人の心に火を点ける」という市長の話が印象的だった。今後、仕事をしていくうえで様々な壁があると思うが、相手の心に火を点けられるように、知識も経験もコツコツと積んでいきたいと思う。
- 入庁1年目でハートミーティングに参加できたことは、大変貴重な経験だった。市長の率直な意見や、環境職に今後どのように期待されているかなど、市庁舎整備にとどまらず幅広くお話しいただいたこともあり、モチベーションの向上につながった。
- とても近い距離で市長と接し、自分たちの活動に対する率直な意見を聞くことができたので、大変有意義だった。
- 市長の話を聞いて、市庁舎整備に当たっては、環境に配慮したハード面だけを追求するのではなく、そこで働く職員の意識も変えていかなければ、来訪する市民にも今回の提言の意義が広がっていかないのではと感じさせられた。

- 縦割り行政の打破等，若手職員に対して積極的な活動など様々な期待を寄せられていることを市長からお話いただき，大変意欲が湧いてきた。
- 今回の提言の内容にも良い点のほか，まだまだ改善しなければならない点があることが分かり，今後の活動につなげていきたいと思った。

★市長からのコメント

- 環境職の皆さんには大いなる期待をしており、今回非常にありがたい提言を頂戴した。千年を超え、自然環境と人々の暮らしが共生している京都議定書誕生の地として、私も原点に立ち返りながら市庁舎整備等に取り組んでいきたい。
- 京都市の環境政策にとって、最大の財産、可能性は環境職そのものである。仕事を進める中で、他の政策や、現代人の生活スタイル、都市のあり方など、様々な壁にぶつかるだろうが、それらを乗り越えていくために必要な力が環境職の皆さんであり、それぞれの職場でしっかりと頑張っていたきたい。
- 今回の提言は、環境職の皆さんが、担当業務以外のことも含めて議論し、まとめていただいたものである。このような縦割り行政を打破するための努力を、市役所職員全員で共有していかないといけない。
- 環境職の皆さんには、最高の教師として、周りの人の心にどんどん火を点けていってほしい。今日は私も火を点けられた。これからも様々な環境政策に担当業務を超えて連携してもらうことを大いに期待している。